midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

December 2013 No.364-365

１２月号の１枚：紅葉に染まる嵐山

［巻頭言］森林を守るために、人口問題も考えておく必要がある

100年、200年の先を見越した林政政策を

「日本の将来推定人口、 国立社会保障・人口研究所（厚生省管轄）」によると人口ピークは127.687千人（2004年）であったが、2100年の人口を以下のように推定しています。

中位推定：63.137千人（49.9%）
　2004年比、64.550千人減
低位推定：46.450千人（35.9%）
　2004年比、 81.237千人減

人口問題は全ての産業・人間の生き方に影響を与えるが、住宅需要が現在の半分以下になるという事も考えて森林を守る100年の計も準備しておかねばならないと思うのです。

そこで、素材生産者・製材・工務店など、森林・林業に従事している方々にお考えを聞いてみたが、全員「そんな先の事は考えていない」ということでした。当然でしょう。今月の給料をどう払うかが厳しい状況の中で、NPOが馬鹿な質問をするものだと思われるかもしれない。だが当会は、悪化の一方に向かう環境問題に取り組むNPOだから、現在の問題に向かいながら100年先の事にも手を打とうと思うのです。「森林破壊という負の遺産を子孫に残したくない」のです。

林政は、100年、200年の先を見越して政策を建てねば、目先の対処療法では何も解決できないと思うのです。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2013.12

12月 1日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
　　持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
12月15日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
　　主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

11月3日（第一日曜日）

気付けばもう11月。時が経つにつれ、徐々に冷え込むようになりました。防寒具が手放せなくなった今、冬の訪れを感じずにはいられません。

今月は、毎年11月の文化の日に開催されてきた小原本陣祭に参加し、私たちForestNova☆は箸作り体験のブース出展を行いました。大名行列の馬にはForestNova☆繋がりで麻布大学馬術部の馬を、乗り手には馬術部顧問の佐原先生、駕籠かきには佐原先生の研究生を含む麻布大学の学生に参加していただきました。第20回目という意義深き節目に立ち会えたことを嬉しく思います。

ブース出展では、私たちが活動している嵐山の山主である鈴木さんへ事前にインタビューを行い、嵐山の木を使うということの意味を深く知り、伝えるという目的のもと、「感謝の気持ち」をテーマに箸作り体験ブースを出展しました。山や自然への感謝、それを育てている人への感謝、この世に生きるもの全てへの感謝など、感謝の輪が循環していくことを目指しました。当日は30膳以上もの箸を作ってもらうことができ、来ていただいた方の中には箸を大事に使うと言って下さる人もいました。鈴木さんに答えてもらったインタビューは、名刺サイズのカードにし、何処から来た木なのかを説明した上で来て下さった方全員にお渡ししました。箸作りもとても良く出来ていて、皆様に喜んでいただくことが出来ました。

大名行列では、既述したように麻布大学関係の人も多く参加しました。小原の方々が努力した結果を表すかのように、道路の両脇は人で溢れかえり、沢山の拍手が贈られていました。感動的な大名行列でした。

小原本陣祭を終えて、普段お世話になっている方々への感謝や思いがさらに膨らみました。当日感謝出来た人も出来なかった人も、今回の小原本陣祭を機に、山主の鈴木さんを始め、中里さんや、小原の皆さん、緑のダムの皆さんに心から「ありがとうございます」と言っていけたらなと思います。また、ただ感謝するだけでなく、日々の行動にも「ありがとう」という思いをのせて、今後も活動に力を尽くしていきます。

世持　由美子
（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

11月17日（第三日曜日）

朝から晴れ。こんなにすっきりとした活動日を迎えるのは３ヶ月ぶりのことだ。雨にもめげない緑のダムのメンバーではあるが、やはり好天に越したことはない。参加５８名。

久々の山仕事とあって今日の作業は盛り沢山。お花畑班はフォレストノバの手伝いもあり放射線量の測定を担当する。昨年も行った調査ではあるが、果たして今年はどのような数値が出てくるのか、気になるところだ。

生命の森宣言東京は担当区画での間伐とボサ刈り、高井戸中と望星高校は毎木調査を行っている。久々に参加の養蜂班・黒川さんは「ミツバチはスズメバチのおかげで全滅してしまいました。４月から再スタートです」とのこと。

森林整備班は寺跡付近で、東電とＮＴＴが設置した電線に掛かりそうな木々の伐採に取り掛かる。フェイリングレバーという新兵器を用いたことにより倒れる向きを調整できたため、何とか電線を切らずに済んだ模様。

今日のハイライトは山から搬出した材の仮置き場の着工準備である。伝統工法にこだわる大工の長谷川さん、体験学校長・斎藤さんの指示に従い、土台の基準線を測る。傾斜地であるため、パイプに水を入れての「水盛り」という作業で水平位置を決めていくが、慣れないこと故、そう順調には進まない。これにもノバのメンバー数人が加わった。斎藤さんいわく「いろいろな人に工法の実際を体験してほしい」。どんな仮置き場ができあがるのか、今から楽しみである。

私は九州・福岡からいらした松井

さんという林業家の方を森へ案内。各班の作業見学や森の話で時はあっという間に過ぎていく。「せっかくだから嵐山の天辺まで行ってみましょう」。頂上からは北都留三山の向こうに南大菩薩の連嶺がたおやかな稜線を描いていた。

帰りは偶然にも、参加していた日大の女子学生たちと遭遇。せっかくなので通常ルートではない知る人ぞ知る急傾斜の小径を辿って下山することに。「楽しかった」とは日大生、生物多様性ならぬ「緑のダムの人材の多様性に驚きました」とは松井さんの弁。

ところで、放射線測定の結果は…。昨年の数値から半減し、自然界に存在する量とほぼ同じ程度に回復したとのこと。ということは、ここ嵐山も福島原発事故の影響を少なからず受けたことになる。原子力の怖さを改めて思う。

終礼時には秋の味覚である柿とナメコが振る舞われた。柿は石井さんが頑張って採集してくれたもの。ナメコは一昨年につくったほだ木から大量発生したものだ。解散するや否や、多くの参加者がナメコめがけて殺到し、あっという間に売り切れてしまった。松井さんも九州へのお土産にお持ち帰り。でも、あれって本当にナメコ？　次回、みな無事に顔を合わせることを祈るばかりである。

左：日大の実習風景
中上：望星の森、トチノキ測定
中下：いよいよ着工、仮置き場
右上：ForestNova、森の案内
右下：圧倒的な大きさのナメコ

ふだんは地道な森林活動にいそしんでいるメンバーではあるが、たまにはこんなご褒美があってもよいだろう。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告１]
山の手入れに参加して

11月17日、初めて、嵐山の山の手入れに参加しました。私達の団体“NPO法人游風”は、日本の木を利用した器（和器）を使用後炭にすることをセットに普及活動をしています。森林保全と炭の活用が新たな課題となっている。

そこで、北鎌倉にて山の手入れなどに参加し、和器の炭を山の土壌改良のため土に還元しようと考えていましたが、ふと疑問がこの枯れ葉が蓄積したした土に炭は必要なのだろうか？この疑問を解決するため、石村さんに相談、「理屈では無い、山に来ればわかる」との一言。その通り、体感だと思い「そうだ、北相模へ行こう。」それが私の初参加となりました。木の保存小屋の建設が始まり、養蜂の方、フォレストノバという学生グループ、放射能測定、様々なグループが山に集まり、学び、遊び素敵な場所だなあと思いました。私の参加した手入れのグループでは、最初に倒した一本目の時は、間一髪（！）思っていた以上の木の倒れるときの衝撃、思っていた以上に自分の近くに倒れたときには、命の危機を感じました。倒す方向を決め、気にロープをかけ、引っ張り、チェーンソーで切り倒す。受け口、追い口、さまざまな便利な道具とロープの結び方、、、初めての参加できこり体験（？）出来ました。自然を守るとはどういう事なのか。感じていきたい。また、参加したいと思います。

竹林　昌代（鎌倉市在住）

[報告２]
嵐山定例活動あれこれ

10月20日

　秋も深まり、落ち葉散るころとなりました。あいにく雨でしたがForestNova☆からは14名も参加しました。そして、今回はそれぞれ3つの班に分かれ活動を行い、それぞれの代表者が執筆を願ったため3名による活動報告とさせていただきます。

　Forest Nova☆木工班は、川崎市ネイチャーフェスティバルでの箸づくり体験の準備をしました。午前中は作業も指導も順調にすすみましたが、発電機の不具合により作業は中止となりました。機械の不調で作業ができなくなることはとても悔しかったですが、機械が悪くなった原因は使用者の自分にもあると気づきました。手だけでなく、頭をもっと動かすことで、機械や道具をうまく扱えるようになれるのだと痛感しました。そして今月の活動では後輩の指導も行いました。教えるのは楽しく、作業の効率も上がりとても良かったです。これからも積極的に教え、技術を引き継いでいきたいと思います。

治田　世以良
（ForestNova　木工班）

　嵐山班はForest Nova☆ の2名に加え、他大学の学生3名で午前は散策を行いました。雨も降っており、足場は良いとは言えない状態でしたが普段では見られない山の姿や幻想的な場面も見られ、とても良い散策であったと思います。午後はForestNovaの2名で崩れかけた経路の補強を行いました。よくよく見ると周りに沢山のキノコが生えていたり、実がなっている植物や紅葉し始めた植物も見受けられ嵐山にも秋の訪れが徐々に近づいているのだと感じられた活動日でした。

金井　美穂（嵐山班）

　勉強会班では、写真家の先生と大工である長谷川さんからお話を聞きました。写真家の先生が大切にしているのは、日本の文化についてだそうです。歴史の背景には、人と森との関わりが大きく関係していることも教わりました。長谷川さんからは、家の骨格となる木の組み方についての話を聞きました。金具を使った材と手刻みの材では建物の寿命が5倍以上も違うそうです。私達にはまだまだ知らないことがたくさんあります。もっと勉強し色々な事を感じ知って、いつかそれを教えてくれたものに返していけたらと思います。

川﨑　茜音（勉強班）

　このように、雨の日の定例活動でも学べることは沢山あります。どんな天気でも私達ForestNovaは定例活動を大事にしていきたいと思います。

[報告３]
東海大高輪台高校スーパーサイエンスハイスクール実習受け入れ

　11月16日土曜日に、本会理事の内野さんとともに、東海大高輪台高校で行われているスーパーサイエンスハイスクール、リベラルサイエンス生物の実習受入れを行いました。2010年より講座の講師を担当させていただき、今年で４年目の取組みになります。毎年、実習前に同校で事前学習として２時間、実習後にデータの整理、その考察で２時間を１ユニットとして講座を進めてきました。本年も同様に、11月7日の午後に同校で実習前の授業を行いました。内野さんから森林の植生について、私からなぜいま森づくりか、森づくりと若者について講義をさせていただきました。

　当日の実習では、２班に分かれ、１班は内野さん指導のもと、コドラートを作成し植生調査を行いました。植生調査では手入れの進んでいる寺跡付近と、手入れがされていない電線より東側の斜面とで比較する作業を行いました。この班と私の担当するもう半分の班とで午前午後、互い違いで実習

を行いました。私が担当した毎木調査では、まず適当な区画を４本の杭を打ち込んでつくり、陸上などで使う５０ｍメジャーで測量を行いました。初めて山歩きでない森に入ったであろう高校生たちでしたが、あちらこちらから大きな声があがり、作業を進めていました。そののち、区画内にあるスギ、ヒノキにナンバーを打ち、胸高直径を計算するための外周の測定と、樹高の測定を数人ずつに分かれて行いました。胸の高さでぐるっと裁縫用メジャーをまわしこみ、外周をはかると、ふとそれが直径だと思ってしまうのは誰も経験するところですが、じゃ直径を計算するには？と聞くとごにょごにょと相談が始まり、２πが演習だから、とまたごにょごにょ相談し、πで割ればいいんだ、となるわけで、その場で計算が始まる訳です。でも、外周だけ測って、あとでエクセルに計算させれば？とアドバイスすると、納得の様子。どんどんと作業が進みます。一方、樹高は会の斎藤さんに考案いただいた、３

辺の比がわかっている木製の三角形を木にかざし、斜辺の先が木の先端になった位置から木までの距離を測れば樹高がわかるという優れものを使っての実習。でもそれに目までの高さを足さなければなりません。また相談しながらごにょごにょ。三角比はいくらだの、なんだの相談しながら、これは三角形の相似じゃないかと結論。直径を求めるにしても、樹高を求めるにしても計算操作自体は数学や情報の授業でやっていても、それをいざ現場で活用するとなると難しいようですでも、そこがまた面白いところで、今までの授業では、今回の実習のように何かをもとめるために計算するのではなく、計算自体が目的になっているので、計算は手段であることが楽しかったようです。しかし、もっとおもしろがっていたのは測定後に、雑木を刈ってしまおうとなってからのテンションの高さ。やはりどの学校の生徒さんも草刈りが一番おもしろいようです。やりがいと達成感は森の楽しみそのものだと再確認しました。

　こんな当日の様子はYouTube緑のダム北相模チャンネルでもご覧頂けますので、ぜひご覧ください。

宮村　連理（本会、理事）

[報告４]
学術協定締結
記念シンポジウム
～相模原の森から世界へ発信、国際基準の森づくりへ

　麻布大学とNPO法人緑のダム北相模との間で包括協定関係が締結されました。締結を記念し、石村黄仁氏、淺野雅樹氏、小原町内会長小林幸治氏(林家)による記念シンポジウムが10月27日に本学生命・環境科学部棟103・104会議室で開催されました。模擬店や各種イベントが目白押しの学園祭の少しにぎやかな喧騒の中、残念ながら来場者は決して多くありませんでした。しかし政岡学長の協定に寄せる期待のスピーチのちに行われた石村氏の基調講演、ForestNova活動報告に続いてのパネルディスカッションでは、三者三様のステークホルダーが織りなす協和音が、会場からの反響とも織り重なって楽しいシンフォニーを奏でていたように思われます。地球規模の理念から相模原の小原・嵐山をフィールドにこれまでに積み上げてこられた地道な活動を語るNPO、「森」を中心に多様な活動ベクトルを放つForestNovaの思い、さまざまな利害の中で活性化に奮闘される地域の提言。「林業の再興」を謳うNPOは少なくありません。「地域活性化」を掲げる自治体、「地域貢献」を標榜する大学も珍しくはないでしょうが、これらアクターの森を巡る真摯な思いからあたらしい協働の一歩が踏み出されたことは確実に言えると思います。

原田　公（麻布大学）

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

●第12期（2013年9月～2014年8月）と2015年3月まで
会員のみなさま、会へのご支援ありがとうございます。（掲載は振込順になります）

正会員
長谷川　主水、咸　泳植、小林　照夫、石村　黄仁、石村　鸞子、
伊熊　敏郎、齋藤　憲弘、瀧澤　康至、北都留森林組合、曽根　福三、
森　弘子、淵上　美紀子、川田　浩、辻田　彪、佐藤　陽子、井伊　直允、
石原　邦雄、瀧澤　道子、松尾　達、角田　尚子、薄井　敬、桜井　尚武、
岡田　陽一、青山　竹文、青山　かよ、佐藤　武行、内野　郁夫、
川田　晃、金子　紀和、石井　明男、田中　万里子、白石　晴輝、
丸山　温、丸茂　喬、（株）小林住宅工業、宮村　連理、吉田　恒久、
黒川　将和、小川　昭子

賛助会員
(株)月尾研究機構、(株)トレカーサ工事

学生会員
杉並区立高井戸中学校地球環境部４７名

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、
一日も休まず“継続は力”。）

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版